情報通信審議会　情報通信技術分科会　ITU 部会
地上業務委員会（第 66 回）　議事概要（案）

１　日　　時

令和３年11月５日（金）10:01～11:48

２　場　　所

Web会議

３　出　席　者（敬称略、順不同）

［委員・専門委員］

三瓶 政一（主査：大阪大学）、小川 博世（主査代理；情報通信研究機構）、足立 朋子（東芝）、飯塚 留美（マルチメディア振興センター）、内田 信行（楽天モバイル）、上村 治（ソフトバンク）、小西 聡（KDDI）、齋藤 一賢（日本電信電話）、斉藤 佳子（パナソニック）、阪田 史郎（東京大学）、田北 順二（全国船舶無線協会）、西岡 誠治（電波産業会）、橋本 明（NTTドコモ）、増田 浩代（富士通）

［関係者］

津持 純（日本放送協会）、齋藤 進（日本総協会）、川本 真紀夫（三菱電機）、山崎 高日子（三菱電機）、中村 一城（鉄道総合技術研究所）、横山 隆裕（電波産業会）、小山 敏（電波産業会）、吉野 仁（ソフトバンク）、柴垣 信彦（日立国際電気）、宮寺 好男（日本無線）、吉岡 正文（日本電信電話）、大槻 信也（日本電信電話）

［事務局］

総務省移動通信課新世代移動通信システム推進室　井出室長、田中課長補佐、杉山官
基幹・衛星移動通信課　伊敷官
基幹・衛星移動通信課基幹通信室　谷田課長補佐、横出主査、内田官

４　配　付　資　料

資料地－66－1	第65回地上業務委員会議事概要（案）
資料地－66－2	ITU-R SG 5関連会合報告書（案）
資料地－66－3	ITU-R SG 5関連会合への日本寄与文書（案）一覧
資料地－66－4	ITU-R SG 5関連会合の対処方針（案）
参考資料1	ITU-R SG 5関連会合の開催案内
参考資料2	ITU-R SG 5関連会合の日本代表団一覧
参考資料3	地上業務委員会構成員名簿

５　議　事　概　要

（１）　地上業務委員会（第 65 回）議事要旨について

【資料地－66－1】

地上業務委員会（第65回）の議事要旨について、事務局から説明があり、意見等がある場合は、11月８日（月）までに事務局に連絡することとされた。

（２）　ITU-R SG 5 関連会合の報告について

【資料地－66－2－1、地－66－2－2、地－66－2－3】

ITU-R SG 5 WP 5A第25回会合、WP 5B第26回会合、WP 5C第25回会合の報告について、事務局から行われた。

（３）　ITU-R SG 5 関連会合への日本寄与文書案について

【資料地－66－3】

ITU-R SG 5 WP 5A第26回会合、WP 5B第27回会合、WP 5C第26回会合への日本寄与文書案について、J-1からJ-13まで13件の寄与文書があることの説明が事務局からあった。

【資料地－66－3－1】

「勧告ITU-R M.1824-1の改訂提案　共用検討で使用する移動業務におけるTVOB、ENG、EFPのシステム特性」について、日本放送協会の津持氏から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査：　この改訂案の終了目標はいつか。

津持氏：　今回のWP 5A会合で”Preliminary”が外れた”Draft revision”が承認されれば、来月のSG 5会合に上程され、そこで承認されれば、改訂が完了する。

三瓶主査：　了。
略語について、例えばQPSKについて、”Quaternary phase shift keying”と書いてあり、私はこの訳の方が適切であると思うが、いろいろな文書で”Quaternary”ではなく”Quadrature”と書いてあるのもある。ITU-Rの中で、何度も出て来る用語であると思うので、おそらく決まっていると思うため、決まっている用語になるようにした方がよいと思う。

津持氏：　ITUの中で、用語を決めるCCV (Coordination Committee for Vocabulary)で監修している用語のデータベースがあり、そちらにはこの記載がある。

三瓶主査：　了。

【資料地－66－3－2】

「ITU-R新勧告草案M.[RSTT_FRQ]に向けた作業文書の修正案」について、三菱電機の川本氏から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員：　前回も寄与文書を出していて、少しずつ進捗しているようで結構であると思う。
Appendixが最後にある。これは前のいくつかのAnnexのどれかに付随しているAppendixなのか、そうではなく本文全体へのAppendixであるのか。もし一部のAnnexのみにかかるのであれば、それを書く必要があるので、その点を伺いたい。

川本氏：　元々は、全体的に周波数調和を行う方法論として、Appendixを記載した。今現在において、Methodology 1という手法を使うのは第三地域で、Methodology 2は欧州で使われている手法であって、質問に対しては、全体的に使われるMethodologyをAppendixで記載した。

橋本構成員：　了。位置付けはこれでよいと思う。

【資料地－66－3－3】

「新レポートM.[100-GHZ.RSTT.EESS.COEXIST]草案への提案」について、小川主査代理から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査：　提出する英文案について、今の説明の内容のメモにしか見えない。この文章でレポート草案を最終版にしたいというのはよい。前回草案になったということもあるが、例えば、2017年に最初に提案したということは書いてあるが、それから議論が十分されたや、前回の会合で草案になった中での審議も終結しているなど、これがレポート草案になってもよいのではないかということが文章で英文に書かれないと、不十分ではないかと思うが、如何か。

小川主査代理：　おっしゃるとおりであるが、前回の寄与分文書は、一部のスクエアブラケットで残されていた文章についての、それを外すための理由を出していて、WG 4の中での審議であるが、こちらからの提案が質問等なくWGレベルでそのまま承認されて、レポート草案になったという経緯がある。もちろん詳しく書くことは必要であると思うが、5年の経緯・蓄積を踏まえた最終的な提案文書であるので、非常に簡易的な文章になっている。これがレポート案に格上げするための寄与文書としての最初の文書かというとそうではなく、

これまでもいくつかレポート格上げの寄与文書もあり、非常に簡易的な寄与文書となっており、それを参考に提出したもの。ただ、主査の意見もあるので、いろいろと前回の審議を踏まえた結果、今回このような形を提案するということを、カバーページの経緯のところに若干追加するというのは可能かと思う。

三瓶主査：　これはあまりにも何も書かれていないので、前回レポート草案になったときにクリティカルな議論も終結した、だからここでレポート案に格上げすることを提案する、という理由付けというのが審議の中では必ず必要であり、状況を見ればわかるというのではないと思うので、文章は付け加えてもらうのがよいと思う。そういうことでよろしいか。

小川主査代理：　了。最初のページに前回の審議の結果等を入れて、完成した文書として前回の会合でも承認されているということを加えたいと思う。

【資料地－66－3－4】

「新レポートM.[252-296 GHZ.LMS.FS.COEXIST]草案に向けた作業文書の変更提案」について、小川主査代理から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員：　英文のp.2にQuestionが二つあり、日本としては、Question 257を加えてよいという意向で鍵括弧を外しているが、Editor’s note 1によるとそれには何か理由が必要なのではないか。もし二つ並べるとすると”Questions 256 and 257”（とQuestionは複数形になる）。それが当然であると思うのであれば、Editor’s note 1を消してもよいのではないか。

細かいことになるが、”1 Introduction”の第一段落の二行目に、”earth exploration satellite service”という表記がある。”earth”の”e”は大文字で、また、”exploration”と”satellite”の間をハイフンで繋ぐ。これが正しい書き方。同じ表現が第二段落でも出て来るが、そちらは正しく書かれている。

また、第二段落の一行目に、”WRC-19 modified RR above 275 GHz”とあるが、RRの後に“Article 5”を補ってもらうとよい。

第三段落の二行目に”already been allocated for mobile and fixed services”とあるが、”allocate”の後は”for”ではなく、”to”である。また、”mobile”の前に冠詞の”the”を入れるのが決まった表現である。

小川主査代　最初の質問について、前回の橋本構成員のコメントであったかと

理：　思うが、FSとLMS間の共用ということで、FSのWP 5CにもQuestionがあり、そこでも共用検討をまずは決定するということで、WP 5AとWP 5Cのジョイント的なレポートと考えられる。前回、ITU-R会合でこれを含めたが、これに関して全く意見はなかった。Editor’s noteを入れていたが、今おっしゃられたように、WP 5A側はあまりこういうところに興味がないような気がし、次回これをさらに議論するというのは時間の無駄のような気がするので、前回WP 5Cにリエゾンを送っているため、WP 5C側からのコメントがあるかもしれないと感じたため、そのときに議論すればよいかと感じた。そのため、Editor’s noteを削除し、スクエアブラケットも削除して、そのように進めたいと思うが、如何か。

橋本構成員：　WP 5Cとの関係も小川主査代理は深く関わっているため、提案元の意向としてそれでよろしければ、問題ないと思う。いずれにしてもシグニフィカントなことではないため、お任せする。

【資料地－66－3－5】

「ITU-R新報告草案M.[CAV]作業文書への修正提案」について、電波産業会の横山氏から説明がなされ、特に質疑なく、承認された。

横山氏：　（自動運転ユースケースの章において、）この新報告を作成する際に出発点として置いた段落について、その後の作業の進展を踏まえてもう不要になっているのではないかとの指摘を踏まえて、削除を提案している。この点については、陸上移動WGの際にペンディングとなっていたものであり、確認が取れたため、ここで削除を提案している。

【資料地－66－3－6】

「レポートM.2417-0の改訂草案に向けた作業文書の変更提案」について、小川主査代理から説明がなされ、特に質疑なく、承認された。

【資料地－66－3－7】

「新勧告草案M.[RAD 92-100GHZ]と新レポート草案M.[FOD 92-100 GHZ]への提案」について、小川主査代理から説明がなされ、特に質疑なく、承認された。

三瓶主査：　これも資料地－66－3－3と同様に、理由付けや格上げの状況説明を加えた文書にした方がよいのではないかと思うが、如何か。

小川主査代　承知した。本文の最初のページに格上げの理由等を追加したいと

理：　　思う。

【資料地－66－3－8】

「ITU-R改訂勧告草案M.541-10へ向けた作業文書の修正提案」について、日本無線の宮寺氏から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

三瓶主査：　最終化の目標はいつか。これを最終化する目標はいつになるか。

宮寺氏：　最終化の目標はWRC-23。これはRRに参照により引用されている勧告であり、WRC-23までの最終化を目標としている。具体的には、来年には”Working document”及び”Preliminary”を外し、来年中にそのような格上げを期待している。

三瓶主査：　了。

【資料地－66－3－9】

「WRC-23議題1.11のCPMテキスト案へ向けた作業文書の修正提案」について、日本無線の宮寺氏から説明がなされ、特に質疑なく、承認された。

【資料地－66－3－10】

「F.2416-0の改訂草案に向けた作業文書への提案」について、小川主査代理ら説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

橋本構成員：　今回の寄与文書本文p.2に”Summary of the revision”がある。こういう情報があってもよいが、報告には、本来サマリは不要である。もちろん書いてもよく、それは承認後最終的には削除する。書き方も、それに沿った記述法の方が誤解がないかと思う。

小川主査代理：　サマリを削除した方がよいような気がする。わざわざ新たに追加するよりも、最終的に消されるものを載せて、なおかつテキストの議論を行うのも時間的にもったいないと思われ、日本からわざわざ出すのはよろしくない気がする。最終的に消されるものであれば消した方がよいと思うが、よろしいか。

橋本構成員：　削除するかどうかは提案元の判断であるが、報告の場合、どうしても改訂理由の説明が必要であれば、SG提出文書へのカバーページに書く。報告本文にサマリがあると誤ってそのまま残ってしまう可能性があるため、サマリの内容は提案文書の理由に記載した方がよいかもしれない。

小川主査代理：　了。資料地－66－3－6と同様に、削除することとしたいと思う。

足立構成員: 寄書本文13ページ目以降の図が壊れて見えているが、問題ないのか。

小川主査代理: これはおかしい。私の手元のものと違う。事務局と相談して、オリジナルのものが維持されるように調整する。

【資料地－66－3－11】

「WP 5Aへのリエゾン文書の提案」について、小川主査代理から説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

足立構成員: 寄書本文タイトルのところで、”liaison statement”の”statement”の綴りがおかしい。

小川主査代理: 修正する。

【資料地－66－3－12、資料地－66－3－13】

「勧告改訂草案 ITU-R F.758-7に向けた作業文書に対する修正提案」及び「報告改訂草案 ITU-R F.2323-1に向けた作業文書の提案」について、日本電信電話の吉岡氏からそれぞれ説明がなされ、以下の質疑応答の後、承認された。

足立構成員: 資料地－66－3－12について、英文について、”2 Proposals”の下から三行目のところに”Japan also would like to proposes”とあり、”proposes”の”s”が不要である。

吉岡氏: 了。

橋本構成員: 資料地－66－3－12及び資料地－66－3－13について、”Proposals”のところで相互参照されている黄色マーキングされている箇所”Document 5C/J-XXX”には、それぞれの寄書番号J-3、J-4など今記載している委員会の番号をそのまま記載して提出してもらうよう、事務局からも配慮をお願いしたい。J-3, J-4と記載すれば受け取ったITU事務局はその点を了解して、正しいWP 5Cでの文書番号を入れてもらえる。

吉岡氏: 了。

飯塚構成員: 資料地－66－3－13について、VHF帯であるが、具体的にはどのバンドか。国によっては、VHF帯が空いているケースもあると理解しているので、うまくそういったところとの連携ができるとよいと思

った。

吉岡氏：　VHF帯は、60 MHz帯である。

（４）　ITU-R SG 5関連会合の対処方針案について

【資料地－66－4】

ITU-R SG 5関連会合の対処方針（案）について、事務局から、説明が行われ、特に質疑なく承認された。

（５）　その他

事務局より参考資料の説明があった。また、全体を通じて、以下の質疑応答があった。

小川主査代理：　今後のWPのスケジュールを見ると、WP 5Bが5Aと5Cと同一の週に行わないことが発生している。そうした場合に、WP 5Bに対する寄与文書の審議を、WP 5Aと5Cへの寄与文書の審議と同時にするということがWP 5Bの関係者に迷惑や負荷が早めにかかってくる気がする。今後、WP 5Bに対する審議の進め方を検討してもらえれば大変助かる。

事務局：　意見について検討する。また連絡する。

三瓶主査：　地上業務委員会のウェブサイトについて、委員会の資料が2020年２月以降アップロードされていないため、特に理由がなければ、速やかにアップロードするのがよいと思うが、如何か。

事務局：　了。対応する。

以上